

は山形勢を往々行ひける其年より互に
寺古馬頭首一たのふに提げ血のつゞくるた刀を
肩のちうけ千安川を渡り徒立よりく教の中と
捨分りしも此重長の中陣へ近付き今日の軍の案の
者として月今河をくにて城のち將ちを頭と打取て
以重長の言提へ入し申えしと多事申けりは諸
軍の名由きふしとて中をわけて通しける段は重
長は近づくこととて陸に之向ししと等しく打ちたる
首を提りけりて是を重長は林れは腰ちり居

たりとふを盛のふ軍了くと提打し切りけりし様の甲
さしとも筋四ちを削り鞘と切先下りに指物のふ
筒まで切下げてうけ筒の口金に切込んがり浅手
なれば重長事もせざりけり近所の者も驚き
前後をより囚えて散々に切りけりばすたにな
りて失せりけり物ある最上勢土黒河内海も象
とば門組人ぞ中野川を安り入るもあり刺違へて
死すもけりしはあ斗の戦は名をいなる兵共五十七
騎討死す越後勢も八十餘人亡びけり山形勢